



みなみの風

【発行日】
令和7年6月20日
【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
学校生活における合言葉 「生き生きわくわく」と「3つの『あ』」

本格的な梅雨の時期は、なかなか気持ちが高揚しにくく、外で遊ぶことがままならないことで、トラブルも出やすいものです。そのような中、校内ではいろいろとあるものの、子どもたちは工夫して毎日をご過ごしています。けがの発生には十分留意したいと思いますが、どうしても保護者の方のご判断をいただく状況の際には一報入れさせていただきますので、今後も引き続きご理解のうえ、ご対応をよろしくお願いいたします。

その後、あいさつについて、ご家庭でどのような会話がなされたでしょうか？「おっ、ちょっと変わったな。」「うん、今までと変わらず気持ちいいな。」「う～ん、何で変わらないのだろう・・・」と思いめぐらせる日々です。

あじさい献立に舌鼓 ～6月6日の給食にて～

献立表の裏面にありますとおり、今月は食育月間です。「食べる力」＝「生きる力」と記載にありますが、まさにそのとおりです。

写真は、今月6日のあじさい献立です。「あじさいご飯(黒米・枝豆)、かつおのかりんとあげ、こんさいのみそ汁、あじさいゼリー、牛乳」です。食材も含めた物価高騰の中、本校の栄養士は調理員とともに、子どもたちの食べる力向上に向け、日々奮闘中です。給食を楽しみにしている子が多いというのは、学校の活力の一つです。食育の推進を、これからも継続していきたいと思ひます。



スポットクーラー導入 ～酷暑に備えた対応～

開成町及び開成町教育委員会のご配慮により、体育館を主たる使用場所として、4基のスポットクーラーが導入されました。ここ数年来続く酷暑対策として、ありがたく使用させていただきたいと思ひます。

今年度は、水泳学習を9月までとし、体育館やグラウンドでの体育が難しくなっても学びを保障する年間指導計画を作成しているところですが、本機を生かして体育館での各種学びが充実できれば幸いです。



児童会テーマが決定しました

企画委員会が中心となり、子どもたちの意見を取りまとめて今年度の児童会テーマが決定しました。「チャレンジ～0から1へ！一歩ふみだしてみよう～」です。今月10日に行われた児童集会では、「苦手なことができるようになりたい」「給食を全部食べられるようになりたい」「すてきさんをたくさん見つけられるようになりたい」等の発言がありました。本気になれるのか、見定めていきます。



子育てアラカルト⑫ ～ひたむきさ～

私は、ねばり強さと自己調整力をあわせて「ひたむきさ」と捉えています。何事もひたむきに取り組むことは、必ずしも簡単なことではありませんが、できないことはありません。

「ひたむきさ」は、その姿を見ているだけで感動を覚えます。日頃の学校生活では、子どもたちのひたむきな姿を数多く見ることができるので、こんなに幸せな仕事はないと感じているところです。例えば、図工の絵や立体作品を自分のもっているアイデアを出し切り、少しでも納得がいくものを仕上げようとする姿がそうです。鉄棒運動や跳び箱運動で、何度も挑戦しても成功せず、ちょっとしたことがきっかけでできたときに見せる満面の笑顔もそうです。逆に、大変なことよりも楽な方を安易に選ぶ姿が見られるのも事実です。人は弱いので仕方がないのかもしれませんが、私は一生懸命ひたむきに頑張っている子が報われない学校にしたいです。

失敗を繰り返す、あきらめてしまうことそれは本当の「失敗」になり、ねばり強く、あきらめずできるようになれば、それは「失敗」ではなく、成功するまでに必要だったプロセスといえるのではないのでしょうか。

私自身も、うまくいかないとすぐにイライラし、感情のコントロールが難しい時が今でも多々あります。時間がたってクールダウンすれば冷静になれるのですが、まだまだ未熟であると反省の日々です。そういう意味では、ひたむきさを有している子を見ると改めて自身を律したいと思わされます。ひたむきな子がどれだけいるかで、その学校の雰囲気は左右されます。本校も、まだまだ発展途上です。



体験や見学から学ぶことの価値

～【5年】田植え体験&【4年】環境センター見学～

子どもたちのみならず、教職員も数多くの点で、地域の方々及び事業所等のお世話になっています。教室で、そして机上で学ぶことももちろん大切ですが、本物にふれるということは、自身のキャリア教育にも直結し、現行学習指導要領においても体験活動の重要性が示されているところです。

5月28日、例年お世話になっている地域の方のご理解のもと、5年生3クラスが田植え体験を行いました。思いのほか手際よく、子どもたちの新たな発見ができました。手で植えるのは、今はほとんど見ることはありませんが、子どもたちは楽しみつつ、その作業工程の大変さを実感したのではないのでしょうか？

今後の学びがどのように進むのかを全て把握できていませんが、少なくとも、「次に田んぼに行くときは収穫」というのは避けたいものです。それは、「米作りって楽だなあ」と思わせてしまうからです。自然との折り合いを付けながら一定期間をかけて、やっと収穫できることを学ばないと意味がありません。今後は、どのような学びが展開されるのかに注視していきます。

6月9日、4年生2クラスが、山北町にある足柄西部環境センターに見学に行きました。ごみの行方について学んでいる子どもたちは、パッカー車に詰め込まれたごみが、どのように処理されるのかを実感することを目的としています。私は4年1組の引率をしました。

見学後、担任にも話したのですが、社会科の学びで大切なのは、施設の概要を知ることにとどまらず、そこで働く方々の思いに迫ることです。むしろ、こちらが主とならなければなりません。どんなに素晴らしい施設があったとしても、それを動かすのは人であり、そこで働く方々の矜持を知ること、今後の自分の生活をどうしていくべきかを考えることとなります。これこそがよく言われている「生きる力」の一つといえるのでしょうか。

残りの2クラスは12日に見学を行いました。後発の強みをどう生かしたのかに興味津々です。



左は、地域の方から具体的話をいただいている様子 中と右は、ひたむきに田植えを行う5年生の面々



真剣に説明を聞いている4年生の子どもたち 何ページにもわたってノートにはいっぱいの気付きが・・・

自分たちでできることを増やしていこう！

～1～3年生のこの3か月を振り返って～

過日、教員の授業力向上を目的とした校内研究会が開催されました。3年生の算数科の学びだったので、一人一人が出番をつくり、自分の考えを伝えるだけでなく、友達の意見を尊重しながら聴いている姿を見ることができました。担任の先生は、より話し方と聴き方とは何なのかを継続して指導してきたと話していました。笑顔や温かさがあるすてきな学級であり、とてもうれしかったです。

2年生では、図工の学習で絵の具と水を使ってきれいな色づくりをしていました。みんな生き生きとして、次から次へと新色をつくり出していました。私に、「麦茶みたいでしょ」「あじさいの色ができました」「コーラの色をがんばってつくりました」などの報告があり、その時の笑顔が今でも頭に残っています。

1年生は、自分たちで挑戦することが増えてきました。徐々に学校生活に慣れ、それに伴い多かれ少なかれトラブルも起こりますが、自分たちで仲直りすることもできてきているようです。もちろん、給食の準備は6年生の支援をほとんど受けることがなく、できるようになりました。4月からの疲れも出てきているところだと思われそうですが、欠席も少なく、「開成南小学校の仲間」として、徐々に活躍を見せています。うれしい限りです。